

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名)

事業所番号	0270600455		
法人名	社会福祉法人 十和田湖会		
事業所名	グループホーム きゃんぱす		
所在地	十和田市大字相坂字小林76-5		
自己評価作成日	平成22年10月31日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外に出かけることを大事にしています。外に出かけ、季節を五感で感じて、人と触れ合う。そんな普通の暮らしをいつまでも続けていただきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigoyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270600455&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成22年12月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出希望や旅行希望など、一人ひとりの希望に沿った支援に向けて、介護計画を作成し、希望のアクティビティができるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>施設の中だけでなく地域の中でその人らしい暮らしができるよう支援する理念を掲げている。入居者、来園者にもわかるようホールに掲示したり、広報紙にも明示している。</p>	<p>『ひとり一人の「その人らしい暮らし」を大切に温かく見守り、さりげなく寄り添い、その人の出来る事良いところを探して持っている力を引き出すよう支援する』を掲げ、管理者、職員の共通認識のもと、サービス提供に当たっている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入し清掃活動や廃品回収に参加、協力している。また、入居者と一緒に道路や神社のゴミ拾いをしたり、雑巾を作って小中学校に寄贈している。</p>	<p>町内会に加入し、清掃奉仕、イベント等へ積極的に参加している。近隣の商店で買い物をしたり、雑巾を小・中学校に届ける等、交流に努め、地域住民が施設に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>精神科医師による認知症についての勉強会を家族や地域の方々にもお知らせしたり、認知症の対応方法を運営推進会議で取り組んでいる。また、実習生や見学も受け入れている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では自己評価、外部評価の結果について報告している。また、入居者の暮らしぶりや日々の取組み等についても報告し、様々な意見をいただいている。</p>	<p>運営推進会議では利用者の状況や行事の報告の他、自己評価、外部評価の結果を報告し、委員から意見をいただいている。いただいた意見は事業計画へ反映させている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市職員が参加し、事業所と市、地域が協力できるよう取り組んでいる。また、自己評価及び外部評価票を提出し、広報紙も配布している。</p>	<p>行政へは評価結果や広報誌を配布し、積極的な情報提供に努めている。市職員が運営推進会議の委員として参加しており、日頃から連絡を取り、協力して取り組めるよう連携を図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>玄関は鍵をかけず自由に出入りできるようにし、入居者が外出した時は職員が見守り付き添っている。身体拘束について勉強会を開き、全スタッフで拘束しない支援に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関する研修会を開催しており、職員は身体拘束をしないケアについて十分認識している。また、玄関にカギをかけない取り組みを行っており、外出傾向を察知した時には無理に止めず、職員がさりげなく付き添っている。帰宅願望があれば自宅まで送迎し、落ち着いてホームに戻れるよう支援している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての勉強会を開いたり、スタッフの日々のケアの提供場面や、入居者の心身状態の観察を丁寧に行い、虐待を未然に防ぐようにしている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加したり、勉強会を開き理解に努めている。現在利用者はいないが、いつでも支援できるよう体制を整えていく予定である。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約、改定等は、十分な説明を行い、利用者や家族の不安や疑問を引き出すよう働きかけ、同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の普段の暮らしぶり、言動から不満や意見を察するようにし、家族にも日常の状況を報告し、意見を出していただいている。また、事業所内に苦情受付窓口を明示し、玄関にも苦情受付箱を設置している。</p>	<p>利用者が意見を出しやすいよう日頃からコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。運営推進会議には家族が参加しており、積極的な意見をいただき、サービス提供に反映させている。ホームの苦情等対応窓口のほか外部の苦情等対応窓口を重要事項説明書に明示し、ホーム内に掲示している。玄関には意見箱を設置している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は年に2回紙面で代表者に意見や提案を述べる機会があり、それについて代表者より回答がある。また、職員会議等でも代表者と話し合う機会がある。	職員会議を定期的に行き、運営やサービスに関する意見を職員から聞く機会を設けている。職員の意見を聞きながらサービスの改善や勤務体制、異動等を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場の状況や職員の状況を良く把握しており、資格の取得を勧める等、やりがいや向上心を持てるよう配慮している。また、就業規則もあり、健康診断も実施している。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修参加や資格の取得を職員に奨励している。また、全員が研修に参加できるよう計画し受講している。受講後は報告書を作成し、合同会議にて全職員に周知している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者と行事や勉強会での交流を実施し、日常的に相談、情報交換等して日々のサービス向上や職員育成に取り組んでいる。グループホーム協会にも加入している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時には、本人と直接面談し、言動を観察しながら話をよく聞き、安心してもらえるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時には、家族と直接面談し、利用者の状態を聞きながら、家族の思いやニーズを把握するよう努め、信頼関係を築くようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネジャー等と十分話し合い、必要なサービスを支援できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の喜怒哀楽を共感し、理解するよう努めている。また、入居者に得意分野で力を発揮してもらい、同じ家に暮らし共に支え合うという気持ちで接している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、家族の思いを把握するようにし、家族、職員と共に本人を支える関係を大事にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないよう日常生活に取り入れたり、出かけたりしている。	利用者がこれまで関わっていた馴染みの場所や人を把握している。利用者の希望に応じて外出支援を行い、自宅へ帰る機会を増やし、本人が今まで生活した場所との関係を継続していけるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の人間関係を把握し、入居者同士のトラブルが生じないよう、入居者一人ひとりの個性を活かして、共に支えあう暮らしを支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談に応じ、必要なサービスを支援する等、良好な関係が継続できている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価		
		実践状況		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の視点に立って思いや希望を把握し、家族からも情報収集を行っている。	センター方式のアセスメントシートを活用し、情報収集している。利用者の思いや希望は、日々の会話で把握したり、聞き取るほか、家族や関係者からも聞き取りを行っており、本人の意向をもとに、介護計画が作成されている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、生活歴やライフスタイル、価値観等を、プライバシーに配慮して本人や家族等から情報収集している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の言動をよく観察し、一日の暮らし方や生活リズムを把握し、情報を皆で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を十分取り入れ、スタッフ全員で話し合い介護計画を作成している。入居者に状態変化があった時は、随時見直しも行っている。	介護計画作成時は、可能な限り利用者の意見を聞き、利用者の把握に努めている。介護計画は基本的に4ヶ月おきに見直し、職員参加でカンファレンスを行い、作成している。また、状態変化があれば、随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や身体状況等について記録し、皆で話し合い情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の商店に日常的に出かけたり、地域の理容店で散髪したり、地域のお祭りへ出かけたりし、地域の中で普通に暮らせるよう支援している。また、小中学校や駐在所等にも広報紙を配布している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望する医療機関で受診している。医師にも認知症の状態を理解していただくよう情報を提供し、受診や治療がスムーズに行われるようにしている。</p>	<p>入居前の既往歴やかかりつけ医等を把握している。受診や通院は、本人の希望に沿った支援を行っており、継続的な医療支援を行い、受診結果は利用者、家族に報告し、共有している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職が気づいた状態変化や気づきに看護職が対応し、併設のデイサービスの看護師、法人内の看護師にも日常的に相談している。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関での入院、治療がスムーズにいくよう情報提供を十分に行い、信頼関係を持てるよう対応している。また、早期退院に向けて家族や医療機関とよく話し合い、本人のストレスやダメージを軽減するよう支援している。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人のできること、事業所でできることを見極め、家族、医師と早期によく話し合っている。終末期の対応は行っていない。</p>	<p>利用者の重度化や終末期の対応は行っておらず、入居時に家族へ十分に説明している。重度化した場合の対応については、特別養護老人ホームへの入所や病院への入院など、家族と継続的に話し合っている。</p>		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルがあり、定期的な訓練を実施している。また、全スタッフが応急手当や救急救命の訓練を定期的に行っている。		/	
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の避難誘導が適切に行えるよう、入居者と一緒に定期的に防災訓練を行っている。また、災害時の協力を近隣に働きかけ、非常食等も用意している。		日中・夜間それぞれを想定した避難誘導策を作成し、毎月1回交互に訓練を行っている。近隣住民へ総合訓練の事前連絡を行ったり、運営推進会議で避難訓練の実施報告を行ったりし、地域の理解が得られるよう取り組んでいる。また、非常災害時に備えて食糧の備蓄も十分に準備している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の言動等に対して否定や拒否したりせず、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや支援を行っている。		プライバシーに関する研修会を開催して、年長者として尊重した対応に心掛けているが、配慮が足りなかった時はすぐに注意し、改善に取り組んでいる。入浴や排泄等、介助時や声掛け時には利用者の羞恥心に配慮し、静かに速やかに支援している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞きだすような声掛けをし、自己決定できる場面を積極的に作っている。		/	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や状態、天気等に合わせ、過ごし方を柔軟に変えている。		/	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の個性や希望を尊重し、衣服を選んでもらったり、おしゃれができるように支援している。また、希望の理美容院へ出かけられるようにしている。		/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望や好みを配慮し作成している。また、下ごしらえ、盛り付け、食器を洗ったり拭いてもらったり等、スタッフと一緒にやっている。	配食業者の栄養士からカロリー計算やアドバイスをしてもらっている。希望や好き嫌いがあった場合には他のものと置き換えている。利用者・職員が同じテーブルに着き、会話をしながらさりげなくサポートし、食事を楽しんでいる。また、片付けや準備のできる利用者には、積極的に手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養と水分が確保できるよう記録をとっている。体調不良等で食事が摂れない時も、タイミングや好み、介助方法を工夫し支援している。また、栄養士にも随時相談し、毎月体重測定も実施している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者の習慣や力量に応じて口腔内の洗浄や義歯の手入れを支援している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、事前誘導を積極的に行い自立に向けて支援している。また、羞恥心に配慮している。	一人ひとりの排尿、排便のチェックリストを記録し、パターンを把握している。パターンに応じて声掛けや誘導を行い、おむつやパットの利用者も日中は事前誘導で夜間のみおむつに変更する等、随時見直しを行い、トイレで排泄するための支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便できるよう、食材やメニューの工夫、活動量の見直しを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望やその日の健康状態、気分に合わせて、入浴している。また、習慣に配慮しながらも適切な支援をしている。	1週間に2～3回の入浴を基本とし、体調に合わせた入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者には時間帯や職員を替えて声掛けする等の工夫をし、どうしても入浴を嫌がる利用者には足浴支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の状況に応じて休息を支援している。寝付けない入居者には、付き添ったり温かい飲み物を提供する等、一日の生活リズムを整えるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については全スタッフがその都度確認し、確実に正しく服薬できるよう、また、飲み忘れや誤薬がないよう注意して支援している。薬剤師にも随時相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や希望、力量等を把握し、一人ひとりに合った役割や楽しみごとを暮らしの中に取り入れるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣の商店へ買い物に出かけているほか、入居者の楽しみや気分転換につながるよう自宅や友人宅、市内外の街や田園風景の季節を楽しみながらドライブに出かけている。	近隣の商店へ買い物に行ったり、自宅までドライブしたり、午後はほとんど外出している。併設するデイサービスの車両を利用し、その日の体調を見ながら車椅子でも外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行き好きな物を選び、お金を払いおつりをもらうことを、入居者の力量に応じて支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者への電話や手紙、贈り物等を歓迎し、本人の力量に応じて電話や手紙を支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることができるような草花や飾りを所々に置き、明るさや温湿度、換気、音等にも配慮し、安心して過ごせるよう支援している。	秋には稲わらを使った作品、冬にはクリスマスやお正月を感じさせる作品を飾る等、季節を感じさせる装飾を行っている。また、ロビーを兼ねた広い廊下があり、利用者がそれぞれゆっくり過ごせる環境がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の人間関係を把握した居場所作りに配慮している。また、和室に座布団、廊下にソファを置いて、いつでも好きなどころでくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していたり、愛用していた物を居室に持ち込んでもらったり、一人ひとりに合った居室作りを行っている。	利用者や家族へは、馴染みのものを持ってきてもらうよう働き掛けており、その人らしい部屋づくりとなっている。持込みが少ない場合は、外出や行事の写真や作品等を飾るなど、利用者の意向を確認しながら居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープが取り付けられており、建物内はバリアフリーとなっている。また、事故防止の為、家具や備品等の配置に気をつけ、場所や目印はわかりやすい表示を心がけ、入居者が自立した生活ができるよう環境を整備している。		